

# 平成22年度「しまね数リンピック」

10月31日(日)に、平成22年度「しまね数リンピック」を開催しました。2回目の開催となる今年度は、出雲教育事務所管内では、新たに雲南合同庁舎を会場に加え、出雲合同庁舎と併せて2会場で開催しました。おかげをもちまして、今年度は昨年度(101人)を上回る185人の参加者がありました(表1)。

表1 平成22年度「しまね数リンピック」参加者数

	小学校			中学校			計
	個人	ペア	計	個人	ペア	計	
出雲会場	28人	45人	73人	15人	70人	85人	158人
雲南会場	6人	8人	14人	3人	10人	13人	27人
計	34人	53人	87人	18人	80人	98人	185人

実施後のアンケート結果(図1,図2)から、参加した児童生徒の多くが、思考力・判断力・表現力等を駆使して解決するような問題にチャレンジすることを、「楽しい」と感じ、そのような機会を求めていることがわかります。このような機会を提供していくことの大切さを感じています。

各学校においても、それぞれの特色を生かした取組の可能性をお考えいただくとともに、日頃の授業の中で、児童生徒が「算数・数学って楽しいな。」と感じられるように、思考力・判断力・表現力等を駆使して課題を解決するような場面を計画的に組み込んでいただくことを期待します。

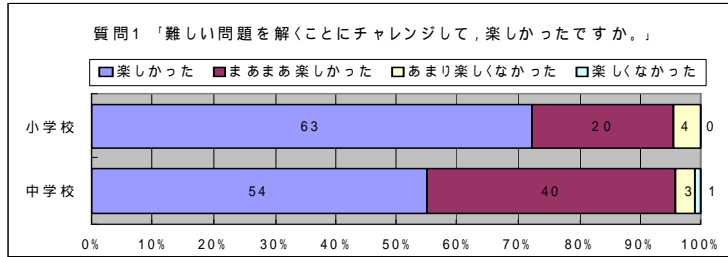


図1 アンケート結果(質問1)

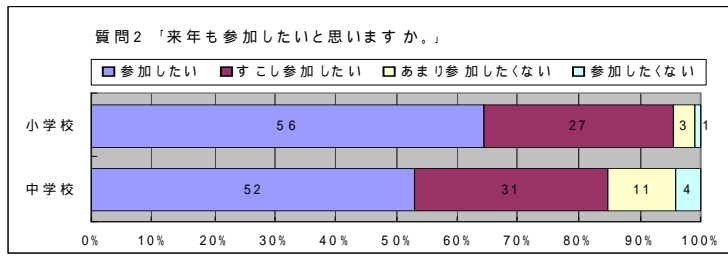


図2 アンケート結果(質問2)

「しまね数リンピック」の問題・解答用紙・解答例は、「島根県教育用ポータルサイト」で公開してあります。学校の参照者用ユーザーIDとパスワードでログインした後、「数リンピック」で検索してください。

「管内の教育」は島根県教育庁 出雲教育事務所ホームページにカラーで掲載されています。

## 所報 管内の教育 第35号

主な内容 1 学校教育の活性化をめざした人事異動  
2 ふるさと教育の推進 - 第 期へむけて:管内派遣社会教育主事だより-  
3 平成22年度しまね数リンピック  
ふるまい向上 ~管内各小中学校の取組からみえること~

出雲教育事務所  
平成22年12月



### 学校教育の活性化をめざした人事異動

出雲教育事務所

教職員の人事異動の目的は、学校の教育活動を清新活発にし、本県教育の進展に資することにあります。出雲教育事務所においても、平成23年度の人事異動方針と同細則に基づいて、以下の3点を基本方針に、広域の視野に立ち、学校教育の活性化をめざし、有効かつ円滑な人事異動を実施します。

#### 1 学校経営構想と各市町の教育構想を尊重した広域人事の実施

島根県教育の基本理念は、「生きる喜び、学ぶ楽しさを通して、一人一人の可能性を开花させ、社会の一員として自立して生きていくことができる子どもを学校、家庭、社会が連携して育む」ことです。この理念を踏まえ、管内の5市町では、それぞれの教育構想に基づき、特色ある教育施策の展開がなされています。管内の人事交流を広域化し、各市町の教育構想を尊重した学校教育の活性化をめざしたいと考えています。

年度当初の学校訪問の際に、自校の学校経営構想に基づく教職員人事配置計画を求めました。それぞれの学校の中長期的な展望に立った学校運営とそれに伴う人事配置計画を重視し、各校のめざす教育構想の実現に寄与する人事異動にしていく考えです。

また現在、広範囲にわたる転補異動や隣接市町の人事交流を実施しています。広域人事交流の実施は教育の機会均等と教育水準の維持・向上に必要であり、教育活動の刷新充実の上からも積極的に進めていきたいと考えています。

#### 2 人事異動細則の遵守

本年度の人事異動方針細則の変更点は、石見・隠岐地域限定採用の教職員の生活の本拠地の取扱い(定義)が追加されたことと県教育委員会指定の人事異動上のへき地学校の新たな追加とその取扱い

(方針2の細則)の2点です。この他については、昨年度と変わりません。

同一市町村勤務15年も従来どおり旧市町村を単位とします。永年勤続解消については、同一校7年も含め、これまでほぼ順調に実施されています。

「他地域勤務」並びに「へき地勤務」の趣旨や考え方については、十分周知されているところですが、未解消の教職員の方には細則に示された年齢に概ね達するまでに着手及び完了していただきます。

なお、「他地域勤務」「へき地勤務」等の細則解消状況については、昨年度までのところで一人一人の解消状況が確認され、確定していますので、本年度の異動調査書の記入にあたっては、昨年度の調査書をもとに点検確認をしていただきたいと思います。

この方針細則は、全教職員誰もが互いに遵守しなければなりません。人事の公平性を確保する上からも細則解消については、厳正に実施していきたくと考えています。

#### 3 個々の赴任計画の尊重

「複式教育に携わってみたい」「大規模校での勤務を経験してみたい」等々、人事異動は、個々の教職としての在り方、生き方にも係わる事柄です。校種や規模、地域性等の異なる学校での多様な勤務経験の積み上げは、教職員としての資質・能力の向上と密接に関連しています。それだけに、中長期的な見通しをもち、自らの成長を促す適切な赴任計画を立てることが望まれます。

管理職には、教職員を育てるという観点から、教職員一人一人のライフステージに応じた的確な指導をお願いしたいと思います。

人事交流を積極的に実施し、学校教育の活性化、教職員の活性化(資質の向上)につながる人事異動を実施していきます。

## ふるまい向上 ~管内各小中学校の取組からみえること~

管内各小中学校ではふるまい向上について、活動内容にも、連携にも広がりのある取組がなされています。それは、ふるまい向上の成果を高める要件が意識されたものでした。

#### <各学校の取組例>

公民館や老人クラブと話し合い、地域で育てる子どもの姿のキーワードを「挨拶、ふるさと、たくましさ」に決定した。幼保小中で策定している「キラリ子育てプログラム」を活かす。「ふるまい10か条」や「当たり前10か条」を作成した。「ふるまい向上」を道徳教育に重ねて取り組む。

「中学校区一斉」や「全保護者と教員」で挨拶運動に取り組む。町内の全小中学校全体で、標語募集とポスター作成に取り組み、全家庭に配布する。幼小中と家庭が連携し、「こども週間」に取り組む。生徒会独自で守るべきルールを作り、自主的な活動を進める。「ふるまい10か条」から生活目標を決め指導に当たる。

#### <要件>

共有：ふるまい向上で育てたい児童生徒像を、学校・家庭・地域で共有すること  
よさ：児童生徒のよさや伸ばしたい点を踏まえながら取組の柱を定めること  
継続：学校だけでなく家庭や地域など多くの人々と一緒になって、継続的に取り組むこと

#### <成果を高めるために・・・>

各学校におかれましては、ふるまい向上の取組を、学校経営にどのように活かし展開していくか。を考慮していただき、より一層ふるまい向上の取組が充実したのになりますようお願いいたします。

# ふるさと教育の推進

- 第 期へ向けて：管内派遣社会教育主事だより -

本県において、平成17年度から実施されてきた「ふるさと教育推進事業」は、今年度で 期6年が終了します。

これまでの成果として、次のようなことが挙げられます。

- ・「学社連携・融合」の意義や効果について、学校、市町教育委員会、地域住民など幅広い関係者の理解が深まった。
- ・学校では、地域の教育資源を生かした特色ある教育活動が展開され、児童生徒が意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ・地域では、学校を身近に感じ、より多くの人々が学校にかかわるようになった。
- ・市町においては、独自の「ふるさと教育フェスティバル」を開催したり、学校においては、学習発表会等で「ふるさと教育」の実践を発表したりする取組が見られるようになった。

平成23年度から、「ふるさと教育推進事業」は、第 期に移行します。様々な事情から、事業費の規模は縮小しますが、決してこれは、ふるさと教育が終息の方向に向かうことを意味するものではありません。ふるさと教育の理念は不変であり、島根の特色を生かした教育として、今後ますます重要性を増していくものと考えられます。

## 雲南市 ふるさと教育の取組

～地域の教育力を育てる『夢』発見ウィークメッセージカード～

今年で3年目を迎える『夢』発見ウィーク(注1)に、今年度新しいメニューが加わりました。「愛の子育てメッセージカード」です。

『夢』発見ウィークは「職場体験」ですが、別の意味で「社会体験」であると言えます。日ごろ家庭で過ごし、学校で学習する生徒たちが、学校や家庭を離れた社会という場で3日間の体験をします。これまで培ってきたあいさつや返事、お客様や職場の方とのコミュニケーション、さらに身だしなみや立ち居振る舞い等、すべてが「社会」という場で通じるのかどうか試す場であると考えられます。子どもによっては、普段元気がよいのにお客様の前では声が出ないとか、逆に普段おとなしいのに張り切って仕事をするということもあります。その職場での姿こそ今の社会で生きる力の表れであり、その子どもたちの様子を学校や家庭に伝え、そこでの指導や支援に活かしてもらおうというのが、このメッセージカードです。

地域社会と学校と保護者を「子どもを育てる」という視点でつなごうというこの取組を、今後も継続していきたいと考えています。

(注1)『夢』発見ウィーク：雲南市で行われている中学校3年生を対象とした職場体験学習です。7中学校が市内全域をステージに一齐に3日間の職場体験を行います。



消防署での日常訓練を体験



中学生は年齢も近く、子どもたちにも大人気

事業所から、学校・家庭へ 送る「子育てメッセージカード」

このカードは、事業所の方がお世話になった子どもの様子、学校の先生や家庭の保護者に伝えるものです。子どもを取り巻く様々な大人の見方や感じ方を大切にし、いっしょに子どもを育てる視点から、ご意見を伺います。子どもたちが、職場で見えた姿の中から、特に印象に残った場面について詳しくお話を伺います。ぜひ、ご感想をお寄せください。

書いていただいたことは、生徒には直接見せず、学校の教員(必要に応じて保護者)に伝えます。そして、学校や家庭の教育力として子どもを育てる際の参考にさせていただきます。写真の掲載は別添です。複数の方で、少しづつ書いていただいても結構です。よろしくお願ひします。

学校名	雲南市立	中学校3年担任の先生へ
職場名(もしあれば)		
生徒氏名		さんについて
職名(もしあれば)		
【(1)これからの大切にしてほしいよかった点】		
お願ひした仕事に真面目に取り組む姿、疑問を丁寧に尋ねていく姿勢、 丁寧な挨拶、終業後は必ず「終わりました」と伝えること、時間がある限り作業を 丁寧に行う姿、職場の安全を常に意識して作業している姿、子どもにも優しく 接し、遊びの相手になってくれたこと、得意な作業を子どもにも教えてくれたこと、 よかったです。		
【(2)もう少し、社会に出るまでに読んでほしい点】		
お願ひした仕事の内容や、職場でのコミュニケーションの仕方、 作業の進め方、安全意識の高さ、職場での人間関係、 大人びた態度、などについて、もう少し詳しく書いてほしいです。		
【その他】		
休みの前の忙しい時期、たくさんの仕事をこなす姿に感動しました。 子どもは休みの日も作業に力を入れて取り組んでくれたこと、 お話を伺うことができました。ありがとうございました。		
事業所名(記入者):		

※事業所の方へお願い  
○この「子育てメッセージカード」は、アンケートとともに封筒に入れて、直接お届きください。  
○学校ごと、生徒ごとに書いていただければ、複数枚の使用も可能です。  
○封筒には「ふるさと教育推進事業」の文字を記入してください。  
○送付する項目のみで結構です。

## 奥出雲町 ふるさと教育の取組

### 「たたら体験活動」

特 色・・・町内11校のすべての小学校の6年生142名が鳥上の「たたら体験工房」に集まり、国選定保存技術者木原明村下さんの指導のもと「事前学習」「炉づくり」「かなな流し」「本操業」の体験を行っています。

ねらい・・・ミニたたら操業をとおして、村下さんをはじめたたらにかかわる人の真心をこめて仕事に打ち込む大切さや誠実さ並びにものづくりのすごさを感じとる。



【炉づくり】



【本操業】



【古墳】



【たたら操業跡】

### 奥出雲町ふるさと教育フェスティバル

日 時 平成22年12月12日(日)

会 場 カルチャープラザ仁多

今年度はステージ発表の後、表現力を養うために「たたら」をテーマにパネルディスカッションを行う予定です。

### 夏休み「地域めぐり研修会」

教師自らがふるさとを知るために、郡社会科部会と教育委員会が連携して夏休みにバス1台で町内6箇所の遺跡巡りを行いました。あいにくの天気にも拘わらず23名の先生方の参加があり、三澤城跡、常楽寺古墳、かなな流し跡、たたら操業跡等を見学しました。身近な所に遺跡があっても知らない事が多く参加者からも好評を得ることができ大変有意義な研修となりました。

## 飯南町 ふるさと教育の取組

～パネル巡回展示「温故知新」～

ふるさと教育の取組をまとめたパネルを、6つの小中学校と5つの公民館に作成してもらっています。どれも見ごたえのあるパネルに仕上げられていて、受け取った時はしばらく見入ってしまいます。作成をお願いして今年で3年目になりますが、年々凝ったものになってきて、今年は目の錯覚を利用した、3D風のものまで登場しました。

(写真では伝わりにくいですが)



作成してもらったパネルは、病院や宿泊・休憩施設など、町内5ヶ所の事業所で巡回展示します。町民の皆さんにじっくり見てもらいたいのので、2～3枚ずつローテーションさせながら5週間かけて展示します。1週間ごとにローテーションさせるのは結構大変ですが、学校や公民館のふるさと教育を広く知ってもらうため、丹精込めて作成されたパネルを有効活用するため、時間をやりくりしながら回っています。



昨年からは学校での展示も行っています。授業公開日や学習発表会・文化祭など、保護者・地域の方が来校される機会をとらえて展示してもらっています。公民館や他の学校の様子が興味深いのか、意外と子ども達がじっと見ているといううれしい話も聞きました。

パネルは年度末に学校・公民館にお返ししています。ふるさと教育の取組のダイジェスト版が、目に見える形として年々積み上がっていくことにも意義を見出しています。第 期から第 期への移行期の今、これまでの積み上げから新しい何かが生み出されることを期待しています。

これまでの成果をふまえ、各地域で学校教育を末永く支援していく体制づくりが必要です。

今後の取組として求められることは、次のようなことです。

- 全教育活動を通した「ふるさと教育」の推進
- 地域の人材発掘と「子どもの教育は地域の大人の役割」という意識の醸成
- 「ふるさと教育」、「学校支援地域本部事業」、「放課後子どもプラン」等の事業間の連携・融合
- 「ふるさと教育」を基盤とした市町の教育体制づくり

ふるさと教育を充実・発展させ、恒久的な学校支援の体制をつくっていくため、今こそ私たちの工夫と努力が求められています。